

夏季教化研修会



8月27日、熱田神宮会館を会場に、恒例の夏季教化研修会が開催された。今年は「奉務神社における伝統行事の伝承や広報活動について」が総合テーマに掲げられ、県内神職72名が出席した。

まず午前9時半に熱田神宮御垣内参拝の後開講式に移り、白井清夫副庁長より、「愛知県神社庁が最も力を入れているのが教化活動であります。皆さんは本日ここで学ばれた事を、只ご自分1人のものにせず、各支部に持ち帰って支部会で発表するなどして広く伝えていただきたい」との挨拶の後、研修に入った。



午前中は、出雲大社権宮司千家和比古氏による「伊勢神宮と出雲大社の御遷宮をめぐって」と題した講演があった。その中で千家氏は、神宮と出雲大社の御遷宮の本義について「遷宮の意味・意図は、祭祀の起源の再現にあり、そこに神社のあるべき理想の姿・活力が内在している」と定義され、記紀や風土記等の古典や実際の遷宮における儀式、出雲に残る民俗事例や考古学の発掘成果など様々な事例を示しながら、遷宮に込められた先人達の想いを説かれた。

昼食後、岡地喜代春教化常任委員により、昨年11月8・9日に神社本庁にて行われた全国教化会議の詳細な報告があった。



次に、熱田神宮禰宜川崎日出夫氏による「『熱田神宮創祀千九百年』を契機とし、三種の神器・熱田神宮・日本神話を広く周知啓蒙せしめる方策について」と題した講演が行われた。まずは熱田神宮における平成の御造営の経緯説明から始まり、今春に斎行された創祀千九百年祭を機に行われた様々な取り組み—境内では歴史パネル展示、女優水野真紀による語り舞台「日本神話への誘い」、境外では信長歴史ウォーキング、東京・金沢での記念講座の開催、また「まんがでよむ古事記 倭武命」「同草薙神剣」、神宮の歴史小冊子など神道教化資料を作成するなど—につき、その全体像が紹介された。

次に参加者を10の班に分け、奉務神社における伝統行事の伝承や広報活動についてグループ討議を行った。各自奉務神社の実例を紹介しつつ討議を行い、最後に各班から1名の代表を選出して全体会にてグループ討議の内容を発表した。伝統行事の継承には少子化や過疎化などの共通する悩みがある一方、独自の工夫や関係する人たちの努力が紹介され、意義のある発表会となった。